



## 国際山羊会議参加報告

去る8月31日から9月4日まで、メキシコケレタロ州で開催された "9th International Conference on Goats" 4年に一度の国際山羊会議です。京都から約26時間かけて、はるばる世界の山羊好きさんに会いに行きました。



会議の内容は、学術講演および発表と、現地の山羊農家やチーズ工房を巡るテクニカルツアー、展示会場における山羊グッズの販売や、山羊の品評会、山羊チーズ試食会などなど盛りだくさんでした。世界44ヶ国から600人以上の山羊好きさんが集まり、会は独特の雰囲気でした。山羊グッズには連日の人だかり、携帯の着信音には山羊の鳴き声、山羊農家見学では予定時間をはるかにオーバーしての質問攻勢…山羊好きの仲間意識も手伝って、大先生方とも山羊農家さんともみんなすぐに打ち解けて仲良くなりました。

私は、この会議にポスター発表者として参加したんですが、たくさんの方々がポスターをじっくり読んで下さって、用意した配布用ポスターもあっという間に売り切れて嬉しかったです☆また、毎日予定ぎっしりのシンポジウムや研究発表では、山羊研究をする上で、というか山羊を振興する上でとても参考になる話がたくさんありました。そんな中、感激したのは今までに読んだ論文の著者の先生方のお話を直接聞いたことです。山羊の

権威デベンドラ先生、アフリカで山羊の研究をされているピーコック先生、遺伝育



Devendra先生と

種のバグニカ先生などなど…有名人に直接接してミーハー心が抑えきれず、一緒に写真を撮ってもらいました♪

さて、今回の開催地となったメキシコは、山羊乳生産が盛んで、小規模から大規模まで多くの山羊乳生産農家があります。そんなメキシコで特に人気のある山羊乳商品といえば『カヘータ』という山羊乳版コンデンスミルクと山羊キャラメル。お土産に買ってまじ



山羊キャラメルの数々

すが、とてもミルクィで美味しかったですよ～(^)。実は、メキシコでも山羊チーズ生産が盛んで、驚くほどたくさんの種類があるのですが、メキシコ人は山羊チーズはどちらかというと苦手、



主に海外からの旅行者の需要のために生産しているということでした。メキシコ北部の大規模農場では、山羊乳を生産しそれをチーズの原料として直接アメリカに輸出しているのだそうです。仲良くなった山羊農家さんは、山羊を飼い始めてから2年目となる今年、すでに500頭以上の山羊を飼育し、そのうち200頭から搾乳しているということでした。絞った山羊乳はすべてアメリカへ…それだけ需要があるということは、日本の山羊乳生産にも明るい将来が…!?

今回、4年に一度の世界山羊会議に参加して、多くの方々と交流が出来、山羊の重要性と将来性を実感しました。渡航を支援して下さった研究室および関係者の皆様にこの場をお借りしてお礼を申し上げます<m(\_)\_m>。

今回、4年に一度の世界山羊会議に参加して、多くの方々と交流が出来、山羊の重要性と将来性を実感しました。渡航を支援して下さった研究室および関係者の皆様にこの場をお借りしてお礼を申し上げます<m(\_)\_m>。

(ようこ)



全国山羊サミット京都大会、盛況の内に幕を閉じました。詳しくは来月号でご案内します。

### 目次:

～広岡先生の随筆⑮～	2
<b>A future(一つの未来)</b>	
ホンジュラスの山羊生産	3
ソーセージ作りに挑戦	3
コラム一言一考	3
山羊で農村開発①	4
山羊柄の服	5
お知らせ	5

異常気象を思わせるような夏でしたが、9月に入って日に日に涼しくなり、秋分を過ぎたらすっかり秋の空。台風の影響もあるのか、重たい雲に覆われる日が続いています。収穫を間近に控えて、頭を下げた稲穂が雨に打たれて倒伏しているのを見ると、切ない気持ちになります。でも、倒伏してしまうのは欲張りの表れなんだとか。この秋「稲がよろめく」という水稻のプロの言葉を聞きました。倒伏しないギリギリの重さで、強い茎を持ち、風や雨に「よろめく」。この微妙なバランスが美味しいお米を作る秘訣だそうです。新米が今から楽しみです。

## 好評連載 広岡先生の随筆

### ⑮A future(一つの未来)

私は、これまでコンピュータシミュレーションを用いた研究をいくつか行ってきたが、基本的には将来予測は行わないようにしている。将来予測は、当たらなければ、研究自体までも否定されることになりかねず、割に合う研究とは言い難いからである。しかし、もし何十年か後の予測を行い、その予測が当たれば、たとえ暗い未来であったとしても自慢できることである。そこで、今回は、遊び心で将来予測を行ってみた。私が考える未来は、以下の通りである。

朝、目がさめたら、まず「おいしい水」でお茶を沸かし、「おいしい空気」を吸ってみる。最近売りだされたこの「おいしい空気」はヒット商品の一つで、1950年代の、高度経済成長以前の日本の空気を再現したものである。昔の日本はこんなに空気がおいしかったのだ、今の空気は大いに汚染されているのだと、この「おいしい空気」を吸うとはっと気づかせられる。

20XX年、日本でもとうとう徴兵制が導入され、大学卒業後に2年間、男子には兵役の義務が課されるようになった。将来は、兵役の期間がもっと伸びるそうである。思い起せば、初等教育における奉仕活動の義務化が言われ始め、2009年には裁判員制度が国民の義務とか言って導入された。あの時、まったく気づかなかったが、これらは徴兵制導入への布石であったのかもしれない。よくよく考えれば、日本国憲法では、国民の義務は、教育、勤労、納税の義務と定められているが、少なくとも強制的に裁判員にならされ、拒否すれば罰金と言うのは、どう考えてもおかしかった。誰かが、用意周到にこうなることを計画していたのかもしれない。裁判員になることを国民の義務とすることで、「強制的な義務」に対する国民の拒否意識のハードルが下がり、待ってましたと徴兵制導入の議論が始まった。

徴兵制の導入に伴って、男子の地位が向上した。それまで女性の地位が上がり続け、男子は肩身の狭い思いをしていたが、お国のために働くと言う大義名目ができ、体力的にまさる男子が高く評価されるようになった。確かに戦前の男尊女卑は徴兵制とリンクしていたと思われる。また、大学院に進学すれば、一時的に兵役の義務が延長され、さらに博士課程でノーベル賞級の研究成果をあげれば、兵役の義務が免除されるらしく、数年前から大学院の進学率が急速に上がり始めたそうである。しかし、ノーベル賞級かどうかを誰がどのような基準で決めるかははっきりしないままである。

最近、好物の和牛肉がほとんど買えなくなってしまった。和牛肉は、数少ない日本の輸入農産物となり、生産された和牛肉のほとんどがアメリカ、中国をはじめとする海外に輸出されるようになった。2000年初頭から起こった石油の高騰が今も続き、資源のない日本の地位は下がり、GNPも下がって、国民は相対的に貧しくなった。また、世界的な環境意識の高まりから、自家用車の販売が落ち込み、頼みの自動車産業も斜陽産業になりつつある。その結果、かつてのように世界中から安い食料を買えなくなり、わずかな自給農産物を中心に質素な食生活を送らざるをえなくなった。和牛肉は、ほとんど庶民の手の届かないところに行ってしまった。かつては、大学の研究室で、やれ暑気払だ、忘年会だと言って、和牛肉の食べ比べをしていたことは夢のような話である。もっと早く、食料自給の問題を真剣に考え、対処する必要があったのかもしれない。問題の先送りのツケが今回ってきたと解釈できなくもない。日本で生産されたものを日本で食べられないと言うのは、かつての発展途上国の人々の生活のようである。

1970年代にローマクラブの「成長の限界」では、コンピュータシミュレーションによる分析の結果から、21世紀の半になると、天然資源の枯渇、環境汚染、食料不足によって、人口が減少すると予測されている。実際、近年、先進国を中心に、人口の減少が始まり、発展途上国では、いまも人口は増えているものの、増加率は急激に減少し、近いうちに人口は減少に転じると言われている。医学の進歩によって、一般的な病気による死亡率は大幅に低下したが、災害をはじめとする自然環境悪化による死亡率が急速に増加している。また、環境ホルモンの影響か、世界規模で著しい出生率の低下が起こっている。予測とは当たることもあるものだと思つて。予測は、たとえネガティブな予測であっても一種の警告と見なすことができ、人間は、その叡智によってネガティブな予測をポジティブなものに変えることができるものと信じていた。このような予測が、まともに当たったらシャレにならないものである。人間の無力さを痛感した。

以上の話が、私が描いた一つの未来予想である。このような未来にならないことを心から望んでいる。何十年か後、この文章が読まれた時、まったく違う未来ならば、それは幸せなことであり、笑いの種にしていただければよいと考えている。

広岡博之

## *Honduras goat production(2); International and local goat production promotion programs and their role with local farmers*

### **Honduran Goat production; A review of actual production condition**

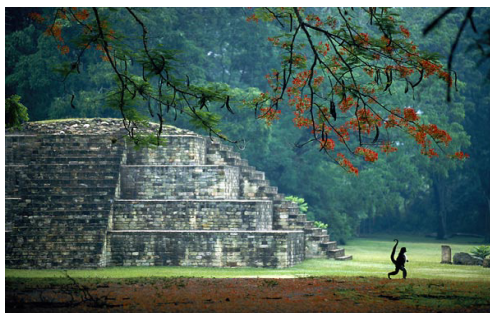
In Honduras, goat production is mostly localized in the southern region, where goat production is oriented to a milk and traction purposes. In southern Honduras there are several goat farmers (5% of the total animal production farmers) and large numbers of inexpensive goats can be purchased. While the breeds and disease history are uncertain for these goats, they tended to be well adapted to the environment. Milk is often not considered a saleable product, but it is socially acceptable to drink goat milk. In most cases, goat milk was produced solely for household consumption or as gifts to neighbors.

In the late 1970s and early 1980s, many development organizations and researchers recognized the potentially important role of goats in agricultural development. One result of this increased interest in goats has been several goat distribution projects (ie: goat introduction projects). In most cases, the main purpose of the projects has been to increase the amount of milk consumed by children, and hence, to improve their nutritional status.

In response of that, local and international organizations have been establishing programs to promote goat production as a solution on aspects such as: 1) to combat child malnutrition (target children under the age of five);

and 2) to assist the poorest people in the community. Those projects are closely tied with other health and nutrition programs provided by the development organization.

The organizations are flexible in the application and selection process of beneficiaries. Normally, the formal process required each farmer or family soliciting a goat to fill out a brief application form to be submitted to the community organization. The organization staff, which largely consisted of members or relatives of the community, evaluated the applications to determine if the family qualified for the program. The evaluation procedure included weighing the children under five to determine if their weight for age was below acceptable standards; collecting information about the number of children in the house; and collecting some basic information about the family's resources. No standards are set regarding household resources.



Mayan Culture, Copan Honduras. Source: National geographic, 2003.

コラム：一言一考 ⑦

「往生」

人それぞれに与えられた人生の責務を全うすること。それを全うする人は、他者の評価に関わらず幸せを感じることが出来る。世俗の価値基準に依存せず、日常をしっかり生きることこそ往生である。

(明太子)



アジア・大洋州畜産学会(AAAP)の元会長渡邊昭三先生が、第13回AAAPで総合講演『Frame work of the code of Good Sanitary』をされました。内容は、農家における排泄物活用法、つまりアジア地域で伝統的に行われてきた、人糞の有効活用についてです。この内容を筑波でアフリカ人の研修員(4ページ参照)向けに、特別にお話いただきました。研修員は、堆肥の活用については頷いていましたが、人糞となると顔を歪めて信じられないという面持ち。人糞の栄養価の高さには感心していましたが、それを使って耕作するのは、どうも納得がいかないようでした。ここは農耕民族と狩猟民族の感覚の違いなんではなかねえ…?

## ソーセージづくりに挑戦!

以前、沖縄へ行ったとき、山羊肉を若い世代に広めようという取り組みから、山羊ソーセージが販売されているのを見てきました。豚脂を混ぜてあったのか、山羊臭があまりせず、食べやすかったのを覚えています。先日軽井沢でソーセージ作り(豚肉でしたけど)を見学してきましたのでご紹介します。作り方は意外と簡単、お家でもできちゃう手軽さです。【材料】豚肉2kg、氷水400cc、食塩50g、お好みのハーブや胡椒などのスパイスとケーシングに使う羊の腸(豚の腸を使うとフランクフルトになるそうです)。【作り方】①豚肉に冷水を加え、十分に粘り気が出るまで練る。氷水を加えるのは、体温が肉に移って劣化しないようにするためだそうです。そのため手がジンジンするくらい冷たいのですが、そこを頑張ってしっかり練ります。②食塩とスパイスを混ぜてさらに練る。③練った肉を、ケーシングに詰める。体験では専用の器具を使いましたが、絞りと丸い口金があればケーシングに詰めることができます。④78~80℃のお湯の中で、15分間茹でて出来上がり。さらに炒めると表面がかりっとして美味しくなります。保存する場合は、氷水につけて急速に冷やしますが、保存料などが入っていないので、冷蔵庫で2日程度が限度だそうです。冷凍したり、燻製にすると長期保存も可能になるそうです。どうぞお試しください~♪

(ようこ)

### やぎ柄の服



ふと、やぎの柄の服、作りましたよ。第11回全国山羊サミットin京都(10月4日・5日)でお手伝いするため、ちよいとウインドブレーカーとかTシャツに、やぎ入れてみました。柄は2つ、Y君の後輩さんに作ってもらって、一部変更を加えたもの(写真参照)。ロゴはなかなか「すたいりっしゅ!」。やぎの顔は「微妙なかわいくなさがかわいい!」。スタッフはウインドブレーカーで、お客さんにはTシャツ販売。二度と作らないであろう限定品ですよ。やぎの世話やソフトボールに大変便利、お得ですよ!フリーダイヤルは・・・深夜ですのでおかけ間違えないように。



(山羊サミットスタッフ)

## 山羊で農村開発①

9月8日から約10週間の予定でアフリカ人の研修生が日本で山羊の生産にかかわる研修をしています。これは、JICA(独立行政法人国際協力機構)の研修生受け入れ制度の一環で、(独)家畜改良センターが主体となって実行している事業です。正式には、『アフリカ地域小型草食家畜生産を通じた農村開発』研修コースといい、ケニア、タンザニア、ウガンダ、ジンバブエ、ザンビア、ガーナの6カ国から7名の研修生が来日しています。研修生は、いずれも



研修も一ヶ月を過ぎ、筑波～家畜改良センター長野牧場～JICA東京～沖縄と移動しながら研修生たちは意欲的に基本的な山羊の飼育管理から人工授精、搾乳、乳と肉の加工技術の実習や生産農家見学などをこなしてきました。新聞やテレビ局などメディアからの取材も受けています。講義や実習のほかにも、休日には新宿や秋葉原へ出かけたり、長野や沖縄では地域住民の方々との交流も図っています。

全く環境の違う日本で10週間を過ごすのは、なかなか大変なことだと思います。研修生の中にムスリムの方がいて、9月はちょうどラマダン(断食)月にあたり、こちらの方がオロオロしてしまいました。でもみんな陽気で、7人中5人はお酒好き♪懇親会などではアフリカの音楽と共に踊りを披露してくれます。日本語会話や温泉入浴にもチャレンジ!生卵とお刺身は、受け付けませんが、日本の文化を楽しんでいるようです。私もアフリカ地域各国の現状や気候条件、家畜の飼養形態等研修生たちからいろいろなことを学んでいます。

この期間中、研究からは遠ざかってしまっていますが、このような研修のお手伝いをさせていただけることに感謝しています。山羊について、まだまだ勉強しなくてはならないことが、たくさんあることを実感します。同時に社会人として仕事をすることは、いい刺激にもなります。

さて、これからの1ヶ月は、農村開発に必要な調査手法やプロジェクトの立案、実施法についての研修が主体となります。『山羊を利用した農村開発』というのは、アフリカ地域のみならず、日本を含めた世界的なテーマのひとつ。途上国においては、最貧困層の収入源として、先進国では農村地域の高齢化にも適応しうる家畜として、その活躍が期待されています。どんなことが学べるのかちょっとワクワクしています。続報をお楽しみ下さい～(^^)



日本と言えば農林水産省の課長クラスのお役人さん達です。私は、この研修のコースアドバイザーとして、技術的な面でのお手伝いをしています。そこで、この研修の様子を実況でお知らせしたいと思います。

各国の山羊生産頭数は、ウガンダ770万頭、ガーナ363万頭、タンザニア1255万頭、ケニア1200万頭、ジンバブエ297万頭、ザンビア127万頭と言われ、日本の16000頭と比べると格段に多いのですが、過放牧による土地の侵食や不適正な飼養管理により生産性が低いのが問題となっています。研修生自身も効率のよい飼養管理方法がわからない、種畜の選抜基準がわからない、生産加工技術が不足している、人工授精を利用して品種改良を進めたいといった自国の問題点をきちんと把握していて、この研修による成果を期待しています。



途上国に熱い期待? ヤギに救いを

アフリカから人研修

途上国に熱い期待? ヤギに救いを

アフリカから人研修

途上国に熱い期待? ヤギに救いを

アフリカから人研修

Department of Animal Husbandry  
Resources, Kyoto University,  
Faculty of Agriculture  
Oiwakekyo, Kitashirakawa,  
Sakyo-ku Kyoto 606-8502 Japan

Tel: (+81)-75-753-6363

Fax: (+81)-75-753-6373

http://www.animprod.kais.kyoto-u.ac.jp/

GOAT BULLETIN



GOAT BULLETINは、皆様の投稿記事で成り立っています。形式・文字数は問いません。また、読者の方々からのご意見やお問い合わせも受付中です。下記のアドレスまで送信してください。

E-mail: [yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp](mailto:yoko3t@kais.kyoto-u.ac.jp)

## お知らせ

### 今月のゼミ

いよいよ後期のゼミが始まります。今月は、

10月 1日(水) 中川(4回生演習用)・竹内(文献紹介)

10月 8日(水) は、学生実験のためゼミはお休みです。

10月15日(水) イクバル(文献紹介)・柳(4回生演習用)

10月22日(水) 椎野(文献紹介)・児嶋(文献紹介)

10月29日(水) 木村(文献紹介)・酒井(文献紹介)

10月30日(木) 竹内(修論中間検討会)

の予定です。前期同様、水曜日の文献ゼミはW-210で14:45~16:45、10月30日の研究者会議はW-210で10:30~12:00ですので、お間違えのないようをお願いいたします。また、変更等の連絡にご注意下さい。

ゼミ係

### 今のおみや



9月は、皆さん海外渡航が多かったので、アジアのフルーツナックやメキシコのカヘータなど国際色豊かなおみやをたくさん頂きました！ご馳走様で~す☆



### 研究室の動き

長期でネパールに滞在していた椎野君が、無事帰国して元気な姿を見せてくれました。塚原さんは、引き続きアフリカ人の山羊研修で不在です。10月3日は山羊研究会、4~5日は全国山羊サミットが亀岡で開催されます。7~8日は、今年度第3回目となる学生実験。12日は畜産学教室創立70周年記念式典・祝賀会です。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

## 2008年 10月の飼育当番表

日	月	火	水	木	金	土
9/28	29	30	10/1 熊谷先生・イクバル 体重測定・予防注射Ⓞ	2	3 日本山羊研究会	4 全国山羊サミット
5 全国山羊サミット	6	7 学生実験	8 学生実験 椎野・児嶋・柳 体重測定・予防注射Ⓞ	9	10	11
12 創立70周年 記念式典・祝賀会	13	14	15 大石先生・酒井 体重測定・予防注射Ⓞ	16	17	18
19	20	21	22 田端・椎野 体重測定・予防注射Ⓞ	23	24	25
26	27	28	29 服部・竹内・木村 体重測定・予防注射Ⓞ	30	31	11/1

**編集後記** この一ヶ月で、京都~福島~メキシコ~筑波~北九州~長野~東京~福島~京都と移動しました。またジブシー生活に戻ったような日々です。時差ぼけも季節の変化も目まぐるしい中で生活していると、それはそれで慣れてきて、いろいろな人々との出会いや、訪れた地域の景色に感動することしきりです。その一方で、たくさんの人々に迷惑をかけたり、やり残した事があるような気分がついて回っています。気をつけてはいるつもりですが、そんな被害にあわれた方がいたら、ごめんなさい。あ~大失敗犯さないといいんですけど・・・(^\_^)